



長年の活動で市のスポーツ振興に寄与

さいとう たかし
齋藤 貴司 さん

PROFILE

さいとう たかし(本町・78)
元市体育協会会長。現在は顧問を務める。郵便局の野球チームで監督を務めたことから体育協会に携わるようになった。

体育協会支えた26年間

県体育協会が6月23日に開いた、第58回体育章贈与式で齋藤貴司さんは功労章を受章した。功労章は本県のスポーツ振興に貢献したと認められた人や団体に贈られるもの。齋藤さんは平成2年、当時の浜岡町体育協会の理事長に就任した。平成16年の合併後も市体育協会の副会長、会長を歴任し、26年の長きにわたって市のスポーツ振興を支えた。

齋藤さんは、理事長に就いた当初はこんなに長く体育協会に関わることになるとは思っていなかった。でも受章はうれしい。今回の体育章では飯塚選手や岡村選手も特別優秀選手章を受章し、市のPRにも良い年になった」と受章の喜びを語った。

体育協会にかけた思い

齋藤さんは市体育協会の要職を務める中で、子どもを育てる「ことに特に力を入れてきた。スポーツは子どもたちのさまざまな成長につながる。例えば、市内で盛んな剣道や空手などの武道は、礼節を学ぶのに良いスポーツ。多

くの子どもがスポーツ少年団などに入って、活発に活動してほしい。ただ、保護者や指導者の負担も大きいから、それを支援したいと思って活動してきた」と話す。

市体育大会や駅伝大会など市内のスポーツイベントでは多くの人が参加してくれるのが肝要と考え、そのためには「運営側が意欲を持たねば」と現場で一緒に行動し、積極的に運営側を手伝い、現場の人員を大切にしてきた。

地域PRにスポーツを

平成28年3月で会長を退任した齋藤さんだが、顧問という立場で現在も体育協会を支える。飯塚選手らの活躍を見て地域PRにスポーツは欠かせないと改めて実感した。これからの体育協会は市のPRに参加してもらえるように有名スポーツ選手とのつながりも大切にしてほしい」とスポーツと地域の振興に思いを寄せる。

スポーツ振興に長年貢献してきた齋藤さんの思いが引き継がれ、体育協会や市のスポーツがさらに発展していくことを願う。